

2023年度 年次報告書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA
Annual Report 2023-2024



©N.Ikegami

2023年5月12日『エレクトラ』指揮：ジョナサン・ノット
エレクトラ：クリスティーン・ガーキー クリソテミス：シネイド・キャンベル＝ウォレス

ご挨拶

平素は東京交響楽団をご支援いただき、心よりお礼を申し上げます。
2023年度の活動をご報告させていただきます。お陰様で東京交響楽団は、2023年度に創立77年を迎え、さまざまな活動が高い評価をいただいております。

2023年度活動概要

【定期演奏会】

4月（第709回）ポーランドの指揮者クシシュトフ・ウルバンスキが登場、プロコフィエフの「ロメオとジュリエット」を自身によるセレクションで、また自国ポーランドの作曲家シマノフスキのスターバト・マートルなどの選曲を暗譜で指揮し、敬虔な響きを届けた。



5月（第710回）はジョナサン・ノットの指揮。リゲティのムジカ・リチェルカータ第2番（ピアノ・ソロ：小笠寺美樹）から音階を続けて、マーラーの交響曲第6番「悲劇的」を開始。各楽器をよく聴かせ、第4楽章にハンマーを5回も鳴らすなど、ノットならではの趣向がちりばめられた。

6月（第711回）は、ローマ歌劇場の音楽監督ミケーレ・マリオッティが日本のオーケストラに初登場し、シューベルトの交響曲第8番「グレイト」をニュアンス豊かに表現し、ロマン主義の息吹を感じさせた。



シューベルトの交響曲第8番「グレイト」をニュアンス豊かに表現し、ロマン主義の息吹を感じさせた。

7月（第712回）はノット指揮、神尾真由子のヴァイオリンで、エルガーの協奏曲、ブラームスの交響曲第2番。8月（第713回）は鈴木優人が、演奏機会が少ないメンデルスゾーン

の交響曲第5番「宗教改革」、と第2番「讃歌」という2曲を、信頼する歌手陣と東響コーラスと共に壮大なスケールの音楽を作り上げた。



9月（第714回）は、次期音楽監督に就任が決まったロレンツォ・ヴィオッティがベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」とR.シュトラウスの交響

詩「英雄の生涯」という2つの英雄を推進力のある演奏で魅了した。「英雄の生涯」では、コンサートマスター、ニキティンによる美しいソロが際立っていた。



10月（第715回）ドビュッシーの交響的組曲「ペレアスとメリザンド」と、ヤナーチェクの「グラゴル・ミサ」。グラゴル・ミサではその破格のスケールを持つ作品を、ノットと充実のソリスト陣、東響コーラスが歌い上げた。



11月（第716回）ノット指揮の指揮でベートーヴェンの交響曲第6番「田園」と、ピアノにゲルハルト・オピッツを迎えてのベートーヴェンのピアノ協奏曲第2番。

12月（第717回）桂冠指揮者ユベール・スダーンによるシューマンの交響曲第1番「春」（マーラー版）、ブラームス／シェーンベルク編のピアノ四重奏曲第1番。

3月（第718回）、邦人作曲家の紹介に取り組む当団正指揮者の原田慶太楼が、藤倉大のWavering World、シベリウスの交響曲第7番、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番（Pf オルガ・カーン）のプログラム。

【その他主催公演】

東京オペラシティシリーズでは、6月に井上道義が武満徹の映画音楽、自身の交響詩とエルガーのチェロ協奏曲（Vc：上野通明）を、9月には若



手期待の指揮者のアンガス・ウェブスターが登場、12月には年末恒例のベートーヴェン「第九」で締めくくった。

川崎定期演奏会は、定期演奏会からピックアップした5公演を主催し、うち4公演をニコニコ動画でライブ配信。多くの視聴者を得た。

【特別演奏会】

5月に R. シュトラウス・オペラ第2弾として、歌劇「エレクトラ」（演奏会形式）を開催した。エレクトラ役の世界屈指のソプラノ、クリスティーナ・ガーキーの終始力強い歌唱、大ヴェテラン、ハンナ・シュヴァルツをはじめする歌手陣と演出監修トーマス・アレン、ノット監督と当団のこれまでの成果を示した公演となり、「音楽の友」誌の2023年コンサート・ベスト10の第1位に輝いた。（表紙写真）

8月に原田慶太楼プロデュースによる「軽井沢シリーズ第2回」を大賀ホールで開催した。12月のノット指揮「第九」2公演、秋山和慶指揮ニューイヤーコンサート、3月の、原田慶太楼×亀井聖矢コンチェルト・コンサート（東京、横浜2公演）はいずれも満席となった。

【フランチャイズ事業】

「モーツァルト・マチネ」、「映画音楽」、「ミューザの日」、「ジルバスター・コンサート」、「フェスタサマーミューザ KAWASAKI」が、川崎市文化財団の主催で開催された。共催の「名曲全集」は全10公演中4公演を無料配信し、全国のファンに視聴された。

新潟定期演奏会は定期演奏会から3公演と、東京オペラシティシリーズから1公演、新潟独自のプログラムによる公演の計5公演が催された。加えて、12月31日には原田慶太楼の指揮で、ジルバスターコンサートが行われ、新潟では久しぶりのジルバスターに会場も大いに盛り上がった。



【青少年育成プログラム】

ズーラシアンブラスとの共演で好評の「0歳からのオーケストラ」は1日2公演完売、「こども定期演奏会」は、ピアノの亀井聖矢、チェロの上野通明などフレッシュなソリストと共演。こどもピアニスト、若手作曲家、こども奏者も参加して盛沢山の内容となった。

【アジア・プロジェクト】

日本芸術文化振興会の助成を受け、国際交流を目的としたアジア・プロジェクトを開始した。初年度はタイを拠点にロイヤル・バンコク交響楽団、シラパコーン大学とパートナーシップを結び、日本大使館ナショナルデーレセプションでの演奏、ロイヤル・バンコク交響楽団のメンバーとの弦楽アンサンブルのジョイントコンサート、そして3月22日にタイ文化センターで主催公演として実施したバンコク特別演奏会は、大友直人指揮、服部百音（ヴァイオリン）が満席の聴衆を大いに沸かせた。



【依頼公演】

新国立劇場のオペラ「エウゲニー・オネーギン」「ドン・パスクワレ」、バレエ「ホフマン物語」では、各公演が高く評価された。

学校巡回公演では、東京都と茨城県で計7公演を行い、各地に音楽を届けた。

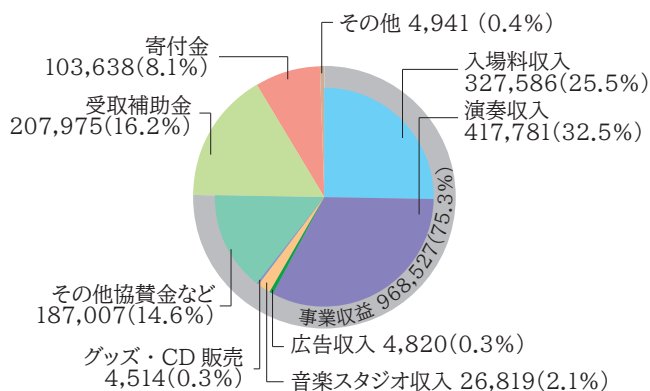
演奏会記録（全139公演）

自主公演（54回）		依頼公演（85回）	
定期演奏会（第709回～第718回）	10回	新潟定期演奏会	5回
川崎定期演奏会（第90回～第94回）	5回	オペラ・バレエ公演	11回
東京オペラシティシリーズ（第132回～第137回）	6回	音楽鑑賞教室・青少年のためのプログラム	24回
名曲全集（第186回～第195回）	10回	録画・録音	1回
こども定期演奏会（第85回～第88回）	4回	その他	44回
特別演奏会	19回		

財産・運営状況について

正味財産増減計算書の概要			
科目	2023年度	2022年度	2021年度
経常収益計	1,285,081	1,276,153	1,255,780
内・事業収益	968,527	1,019,983	964,863
内・受取補助金	207,975	132,787	139,126
内・寄付金	103,638	113,316	133,139
経常費用計	1,311,643	1,245,701	1,198,988
当期経常増減額	△26,562	30,452	56,792

収入（2023年度）1,285,081（単位：千円）



支出（2023年度）1,311,643（単位：千円）

